# ネットワーク統合とフルクラウド化

## ～ICT環境から考えるこれからの働き方～

坂戸市教育委員会
学校教育課　菅（かん）　裕太（ゆうた）

# 目次

1. 自己紹介

2. 坂戸市の紹介

3. 背景（なぜネットワーク統合・フルクラウド化したか）

4. 導入（どのように進めたか）

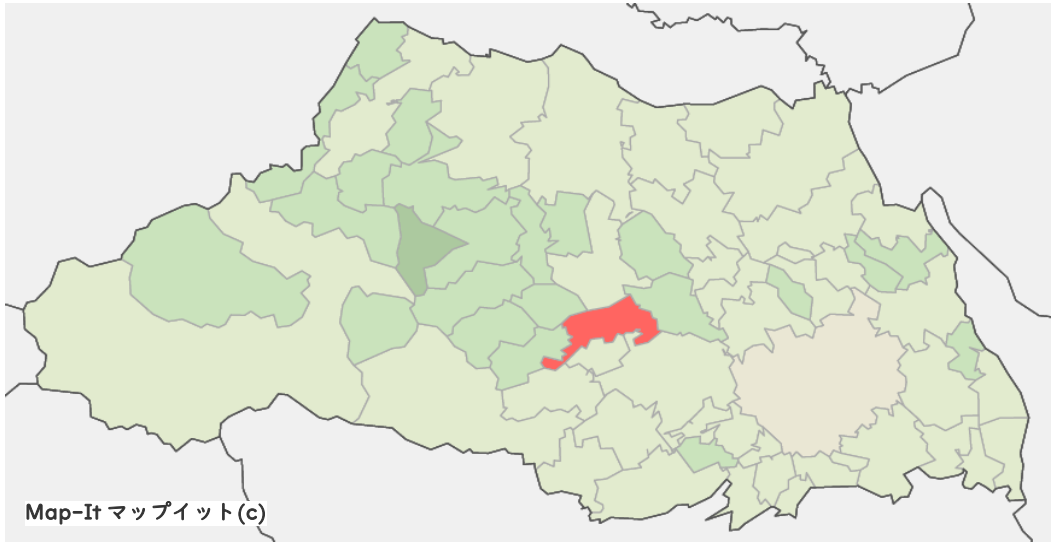
5. 現状（稼働２年目を迎えて）

6. 今後に向けて

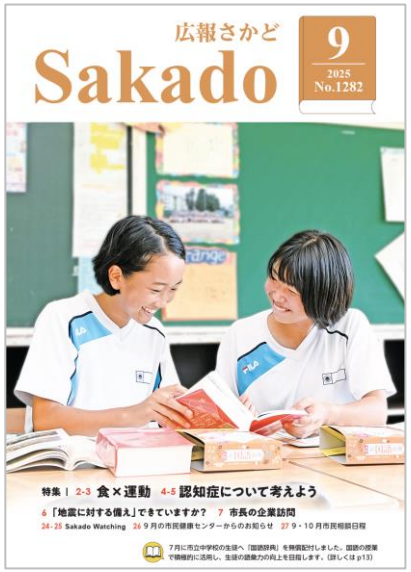
# １．自己紹介

| | |
|---|---|
| 平成２８年<br>４月 | ✓坂戸市役所に入庁<br>✓防災安全課に配属（５年間勤務）<br>✓備蓄品の管理、普及啓発（出前講座など）、防災行政無線の管理などに従事 |
| 令和３年<br>４月 | ✓学校教育課に異動（現在５年目）<br>✓新型コロナウイルス対応（自動水栓の設置など）、安全対策（通学路・交通安全・防災・防犯）、学校ICT全般に従事 |

# 2．坂戸市の紹介




- 全中学校生徒へ国語辞典を配付（R7～）
- 教材費の一部公費負担（R7～）
- 全小・中学校の水泳授業を民間施設へ委託（R6～）
- 全児童生徒へ自転車用ヘルメットを貸与（R6～）
- 給食費の全額無償化（R5～）




（令和7年5月1日現在）

① 人口
99,680人

② 学校数
小学校：12校　中学校：7校

③ 児童生徒数
小学校：4,307人
中学校：2,457人

④ 教職員数（県費）
小学校：330人
中学校：196人

坂戸市イメージキャラクター
さかろん

# 3. 背景（なぜネットワーク統合・フルクラウド化したか）

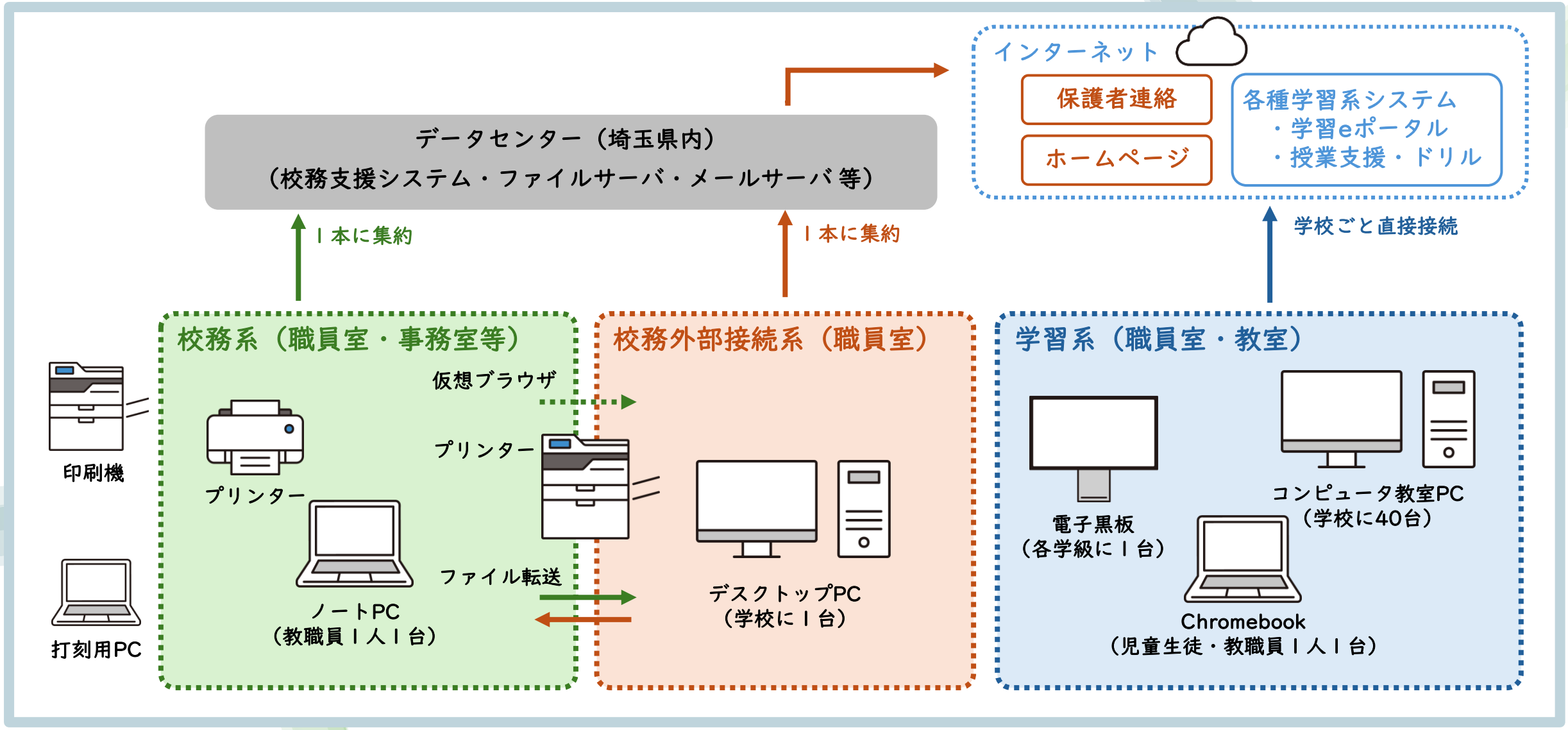
当時の主な課題

- 校務用端末がインターネットに直接つながっていないため不便
  （仮想ブラウザ・ファイル転送が負担に）
- 校務用端末は職員室や事務室など一部の場所でしか使えない
- 用途に応じて複数のネットワークと端末を使い分けなければならない煩雑さ
- 紙に印刷すること・押印することを前提とした運用

GIGAスクール構想がきっかけとなり、働きづらいICT環境が浮き彫りに

働きやすいICT環境へ

# 3． 背景（令和５年度までのICT環境）



# ４．導入（考え方①）

1. 学校のICT環境は、そこで働く教職員の働き方そのものに直結する極めて重要なもの
（教育委員会が担う役割・責任は非常に大きい）

2. 単なる更新ではなく、教職員を取り巻くICT環境をよりよいものに変えていくという意識
（学校だけが世の中から取り残されていくことは絶対に避けなければならない）

3. ICT環境の更新だけでなく、校務の在り方そのものを見直す機会と捉える

4. 既存ベースではなく、ゼロベースで見直す　⇒　当たり前を疑う

# ４．導入（考え方②）

５．５年先を見据え、クラウドベースのシステムと最新の機器を前提に

６．校務に関するものは可能な限りまとめて調達
⇒保護者連絡システム・デジタル採点システム（中学校のみ）・備品管理システムも含める

７．まとめて調達することのメリットを生かす
⇒システム間のデータ連携が可能なものはすべて連携させる

８．災害対策の視点も含める
⇒水害対策として一部学校のネットワーク機器の上階移設
⇒避難所としての利用を想定した公衆無線LAN「00000JAPAN」を利用可能に

# ４．導入（事業者選定から稼働までの流れ）

## １　事業者の選定（令和５年４月～９月）

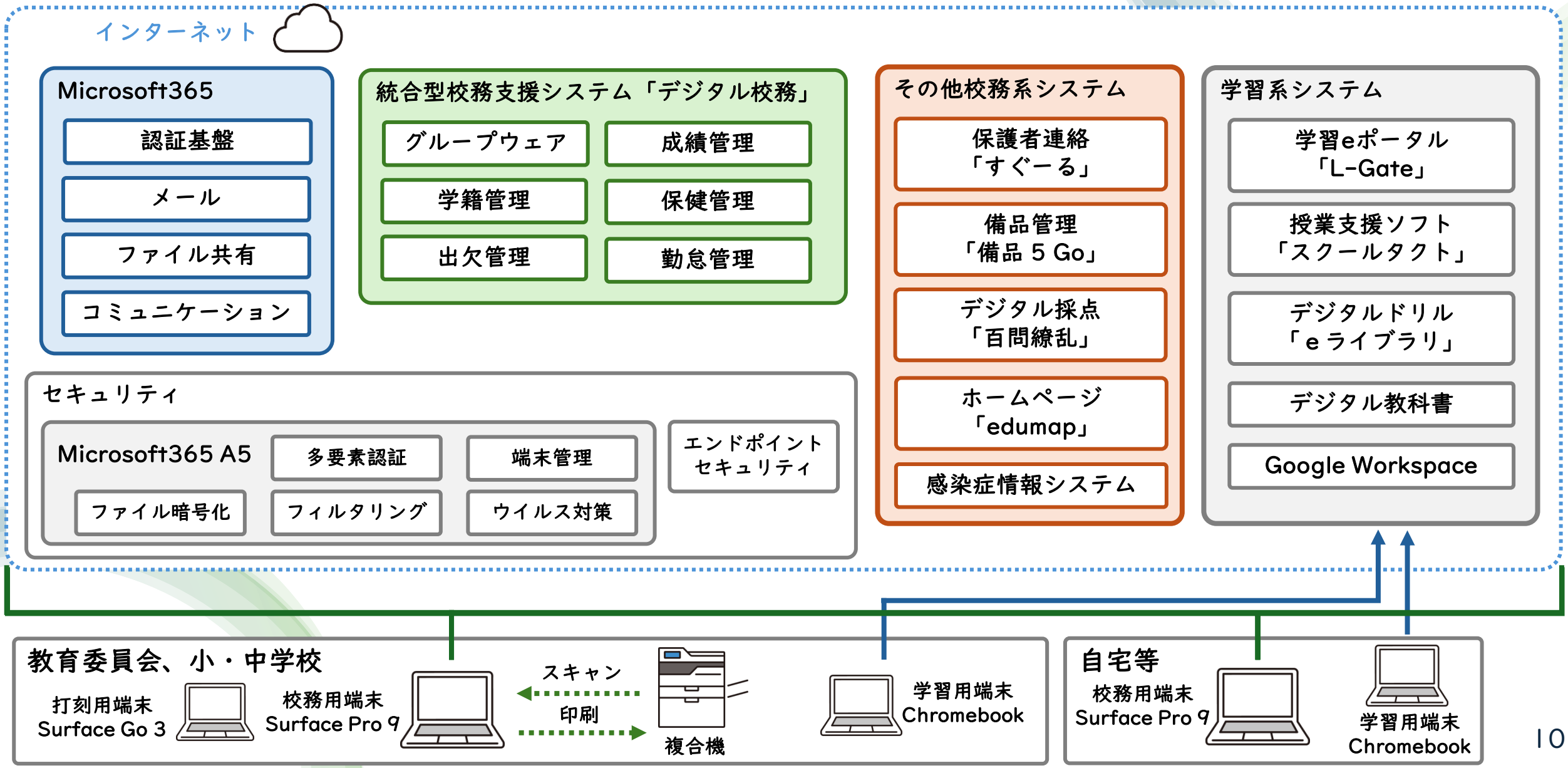
- 公募型プロポーザル方式を採用　（事務量は増えるが、妥協はできなかった）
- 学校の代表者で構成する選考委員会で事業者を選定　（学校現場の意見を可能な限り取り入れる）

## ２　導入（令和５年９月～令和６年３月）

- インフラ（ネットワーク・端末）チームと校務支援システムチームに分かれて、並行して打合せを実施
- 校務支援システムチームには、引き続き学校の代表者にも参加を依頼

## ３　稼働（令和６年4月～）

# 4． 導入（令和６年度からの環境）



# ４．導入（導入機器の紹介）

## Surface Pro 9

- ✓画面・カメラの解像度の高さ
- ✓ディスプレイをタッチして操作可能（学習用端末と同じ使い方が可能）
- ✓高性能なタッチペン（活用の幅を広げる視点）
- ✓Bluetoothマウスも付属（利便性を考慮）

## 外付けのディスプレイ

- ✓事務作業が多い職種の職員に配備（業務効率や利便性を考慮）
- ✓旧校務用端末（ノートPC）よりも画面サイズが小さくなることへの配慮

# ４．導入（導入機器の紹介）

## 複合機

- ✓プリンター・コピー機・スキャナー・FAXを複合機１台に集約
- ✓カラーもモノクロ問わず既定の枚数まで利用可能な定額制
- ✓学校規模に応じて必要な台数を整備
- ✓インクやメンテナンスボックスに係る費用も契約に含まれている（別途予算を確保する必要なし）
- ✓インク等の使用状況をメーカー側が遠隔で監視。少なくなったら自動で学校に配送（管理負担軽減）

↓導入事例をご紹介いただきました

導入事例 坂戸市教育委員会

# ４．導入（振り返り）

## 特に重要だと感じたこと

◆どのようなICT環境を実現したいかを明確にすること

◆学校・教育委員会のICT環境全体を把握し、網羅的に対応すること

◆学校の教職員の理解を得ること　⇒　顔の見える関係づくり

◆学校は様々な職種の人が働いており、職種によって求めるICT環境にやや違いがあること

◆今ある業務をいかに効率的・効果的にできるか（見直せるか）を考えること

## 特に苦労したこと・反省点

◆導入期間７か月間は短かった（余裕のあるスケジュールにしたかった）

◆ファイルサーバや校務支援システムのデータ移行

◆学校への情報伝達（どうすれば正確に情報が伝わるか）

◆導入期の業務過多

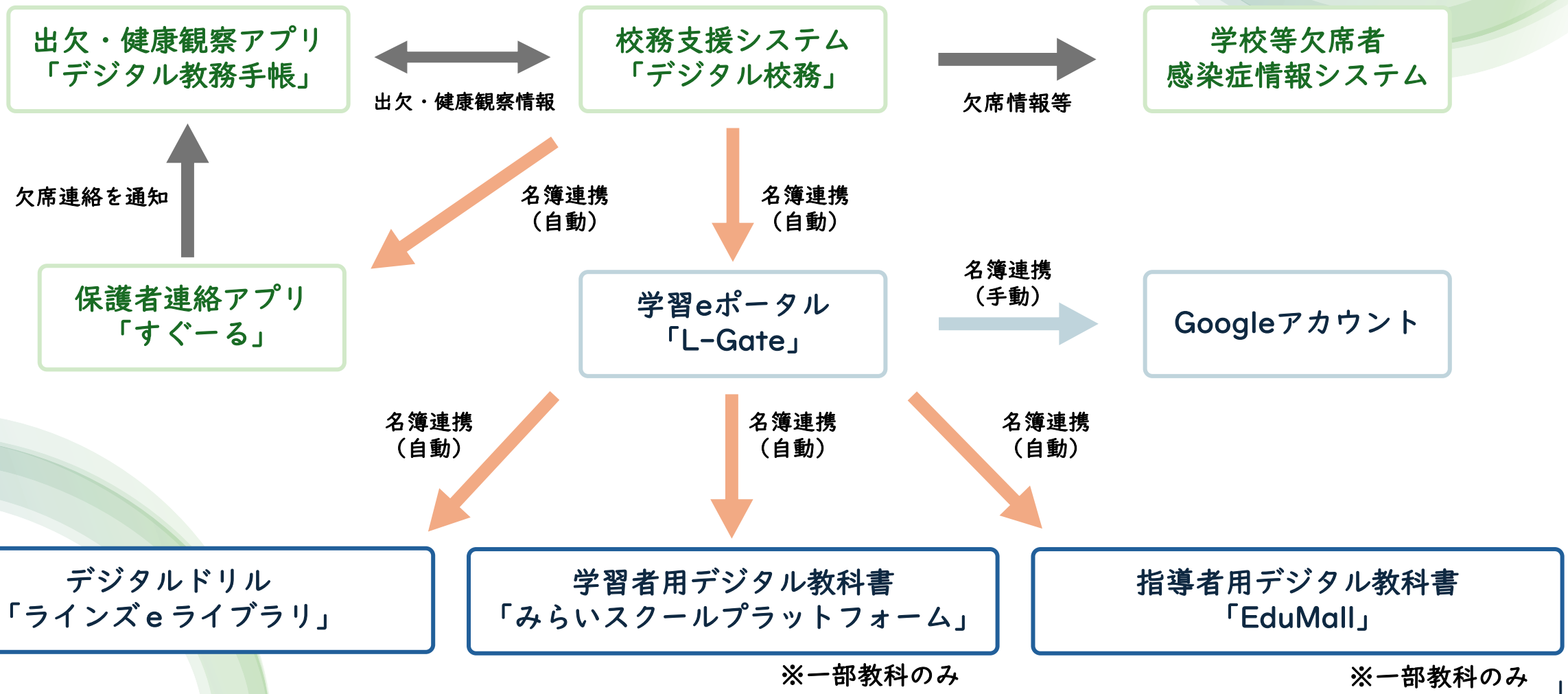
# ５．現状（稼働２年目）

## 統合型校務支援システム「デジタル校務」の活用

- ✓ 各種公簿を紙保存から電子保存（デジタル校務への登録・確定をもって保存）に切り替え
- ✓ 各種休暇や出張も、紙申請から電子申請に切り替え
- ✓ 児童生徒の日々の様子などを「気づき」として登録することで、教員間での共有が容易に
- ✓ ダッシュボード機能により、単位（児童生徒・学級・学校・教育委員会）ごとに情報を一元的に可視化
- ✓ 文書交換機能で、教育委員会から発出する文書をシステムで収受・回覧・回答できるようになり、文書収受のペーパーレス化を推進

# ５．現状（稼働２年目）

校務支援システムや学習ｅポータルを起点とした連携環境に



# ５．現状（稼働２年目）

## 保護者連絡アプリ「すぐーる」の活用

- ✓ 児童生徒の出欠連絡がアプリで可能に
- ✓ 学校からのお知らせがアプリに集約され、保護者側の利便性も向上
- ✓ 保護者へのお便りなどの配布をアプリでの配信に切り替え、ペーパーレス化と確実な情報伝達を推進
- ✓ 教育委員会からも保護者へ直接配信が可能に

## 気をつけていること

■ 保護者への周知はアプリ配信を基本に（市長部局も）。
理由なく紙で配付しない。　⇒　紙での配付は教職員の負担

■ 緊急でない場合は、配信時間を午後５時～午後６時の間に統一。
⇒日中（児童生徒が学校にいる時間）の配信は、学校からの緊急の配信か区別がつきにくい。

# ６．今後に向けて

■導入したシステムの効果的な使い方を常に追求していく。導入して終わりにしない。

■校務における生成ＡＩの効果的な活用（Copilot・Geminiなど）

■学習用端末の更新とあわせて、よりよいICT環境の構築を目指す。

■教育委員会と学校の「顔の見える関係」づくりの継続

ご清聴いただきありがとうございました